

2018年度 早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科 研究指導内容・コード一覧

以下は **2017年5月13日時点** の情報です。公開後の変更は赤字で記載します。

今後内容が変更になる可能性もありますのでご注意ください。

1回目公開：2017年4月17日

2回目公開：2017年5月13日（16ページ一部情報追記）

<注意事項>

① **当研究科では入学後のミスマッチを防ぐために、出願前にご自身の希望する研究指導の担当教員とコンタクトを取り、担当教員とご自身の考えている研究内容などを十分に相談してください。なお、担当教員と事前の連絡を取らず出願することがないようになしてください。**

(1) 担当教員への連絡は、以下メールアドレス宛てに送付してください。

なお、送付の際は以下を必ず明記してください。

- 1) 指導を希望する教員名
- 2) 希望する課程(修士課程2年制・博士後期課程・修士課程1年制)
- 3) 希望する入試形態(一般入試・推薦入試・社会人入試・外国学生入試など)
- 4) 氏名・カナ氏名(在学生の場合は学籍番号も記載)
- 5) 自身の連絡先(携帯電話番号、メールアドレス等)
- 6) 教員へ送付したい内容(教員への質問や相談などを詳細に明記すること)

早稲田大学所沢総合事務センター 入試広報課

大学院スポーツ科学研究科 入試担当 宛

supoken-nyushi@list.waseda.jp

(2) 海外出張等で教員とすぐに連絡がつかない、または返信が遅れる場合もありますので、早い段階から教員との相談・確認を開始してください。

② 研究指導コードは次ページ以降を参照のうえ、間違いのないように志願票にご記入ください。

<ご参考：早稲田大学 Web シラバスシステム（検索ページ）>

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

2018年度 大学院スポーツ科学研究科 研究指導コード一覧

●修士課程2年制・博士後期課程

研究領域	研究指導コード 【修士2年制】	研究指導コード 【博士後期】	研究指導名	資格	担当教員名
スポーツ文化	A00	—	武道論	教授	志々田 文明
	—	—	スポーツ人類学	教授	寒川 恒夫
	A10	M10	スポーツ倫理学・教育学	教授	友添 秀則
	A15	M15	スポーツメディア論	教授	トンプソン リー A.
	A28	—	スポーツ史	教授	石井 昌幸
	A30	—	舞踊論	教授	杉山 千鶴
	A32	—	体育科教育学	准教授	吉永 武史
	A35	—	スポーツ教授学	准教授	深見 英一郎
スポーツビジネス	A38	M20	スポーツ社会学	准教授	中澤 篤史
	B00	—	スポーツ経営学	教授	木村 和彦
	B05	N05	健康スポーツ論	教授	中村 好男
	B10	N10	スポーツビジネスマネジメント論	教授	原田 宗彦
	B15	N15	スポーツクラブビジネス論	教授	間野 義之
	B20	N20	トップスポーツビジネス論	教授	平田 竹男
	B22	N30	スポーツ組織論	教授	作野 誠一
	B24	N35	スポーツビジネス・アドミニストレーション	教授	武藤 泰明
スポーツ医科学	B26	N26	スポーツビジネスマーケティング	教授	松岡 宏高
	B28	—	スポーツビジネス法	准教授	松本 泰介
	C00	P00	運動免疫学	教授	赤間 高雄
	—	—	健康運動疫学	教授	荒尾 孝
	C20	P20	スポーツ健康管理学	教授	坂本 静男
	C25	—	運動器スポーツ医学	准教授	鳥居 俊
	C32	P32	健康行動科学	教授	岡 浩一郎
	C34	P34	スポーツ整形外科	教授	金岡 恒治
	C36	P36	予防医学	教授	鈴木 克彦
	C38	P38	アスレティックトレーニング	教授	広瀬 統一
	C40	P42	骨格筋生理学	教授	秋本 崇之
身体運動科学	C42	P44	運動代謝学	准教授	宮下 政司
	C46	P46	運動器スポーツ機能解剖学	教授	熊井 司
	C48	—	健康教育学	准教授	石井 香織
	C50	—	スポーツ神経精神医科学	准教授	西多 昌規
	D00	Q00	スポーツ神経科学	教授	彼末 一之
	D05	Q05	生体ダイナミクス	教授	川上 泰雄
	—	—	運動生化学	教授	樋口 満
	D25	Q25	スポーツ生理学	教授	村岡 功
D30	Q30	スポーツ心理学	教授	正木 宏明	
D35	Q35	スポーツ情報処理	教授	菅田 雅彰	
D38	Q38	統合運動神経生理学	教授	宝田 雄大	
D42	Q42	バイオメカニクス	教授	矢内 利政	
D45	Q45	スポーツ栄養学	教授	田口 素子	

(次ページに続く)

コーチング科学	E00	—	走運動・コーチング科学	教授	磯 繁雄
	E05	—	トップスポーツコーチング科学	教授	奥野 景介
	E10	R10	スポーツコーチング学	教授	土屋 純
	E15	R25	コーチング心理学	教授	堀野 博幸
	E16	—	ボールゲーム戦術戦略論	教授	倉石 平
	E20	R20	トレーニング科学	教授	岡田 純一
	E25	—	チームスポーツコーチング論	准教授	松井 泰二
	E28	R30	武道のコーチング学	教授	射手矢 岬

※1:2018 年度 4 月入学入試より募集停止 ※2:2018 年度 9 月入学入試より募集停止

●修士課程1年制

研究指導コード 【修士1年制】	研究指導名	資格	担当教員名
F00	トップスポーツマネジメント	教授	平田 竹男
G00	スポーツクラブマネジメント	教授	間野 義之
H00	健康スポーツマネジメント	教授	中村 好男
J00	介護予防マネジメント	教授	岡 浩一郎
L50	エリートコーチング	教授	土屋 純(主担当)
		教授	磯 繁雄
		教授	奥野 景介
		教授	堀野 博幸
		教授	倉石 平
		教授	岡田 純一
		准教授	松井 泰二
		教授	射手矢 岬

修士課程2年制コース・博士後期課程

1. スポーツ文化 研究領域

武道論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

志々田 文明 教授

専門分野/専攻分野: 思想史・武道論

学位: 博士(人間科学) 早稲田大学

Home page: <http://ju-jutsu.jp/ja/>

研究指導の内容: 今日、格闘技、武術、武道は、競技スポーツ、伝統武術・武道、エンターテインメント等として世界に展開し、そのありようは多様である。また国際的文化交流が進むなかで武術・武道の文化変容は実用性を中心とした伝統的価値をめぐって議論がなされている。本研究指導では、諸種の武術・武道の哲学的(原理的)理解、実践的技法と思想(技法・心法論・芸道論等)との関係、また、伝統と文化変容の関係などを思想史的方法によって研究し、国内及び国際学会誌に論文を執筆できるよう指導する。

Keywords: 格闘技, 武術, 武道, 文化変容, 思想史

スポーツ人類学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

寒川 恒夫 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ科学/スポーツ人類学

学位: 学術博士(筑波大学)

Home page:

研究指導の内容: スポーツを文化の問題として文化人類学(民族学, 民俗学)の方法によって研究することができるように指導する。対象は、時代と社会を問わない最広義のスポーツであるが、民族スポーツ(エスニック・スポーツ)を中心にし、またエスノサイエンス次元の身体問題をもあつかう。世界と日本におこなわれる最広義のスポーツを、起源・伝播・変容、構造機能論、象徴論、文化ツーリズム、身体技法、心身論などの諸視点からアプローチする。指導の中にはフィールドワーク方法論も含まれ、年に一度以上、外国において民族スポーツ調査をおこなっている。

Keywords: 民族スポーツ(エスニック・スポーツ), 遊戯, 身体技法, スポーツ文化複合

スポーツ倫理学・教育学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

友添 秀則 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ科学/スポーツ倫理学, スポーツ教育学

学位: 博士(人間科学) 早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/tomozoe/index.html>

研究指導の内容: 現代スポーツは勝利至上主義, ドーピング, 過剰な商業主義, スポーツ・イベントのメガ化による環境破壊等に代表されるように, 多様な倫理的アポリア(難問)を内包し, 様々な局面でスポーツの倫理的な逸脱現象が頻出している。本研究指導では, このような現代スポーツにおける倫理的逸脱現象を対象に, 応用倫理的な考察を加え, スポーツ文化のあるべき存立基盤を解明していく。と同時に, スポーツ文化による人間の陶冶可能性についても, 人格教育論を中心に考察し, スポーツ教育における社会学習の方法論や人間形成の教育的な機序についても指導する。

Keywords: スポーツ倫理, スポーツ教育, 人格陶冶, 人格教育, 人間形成, 社会学習論

スポーツメディア論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

リー トンプソン 教授

社会学/スポーツ社会学

学位: 博士(社会学) 大阪大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/thompson/index.htm>

研究指導内容: メディアとはコミュニケーションの媒体となるものであるが, とくにマスコミュニケーションの手段であるテレビ, ラジオ, 新聞などのマスメディアをいうことが多い。マスメディア研究には大きく分ければ制作, 内容, オーディエンスという3つの領域がある。スポーツメディア論では, 少なくとも一つの領域からスポーツとメディアの関係を取り上げる。私は特に内容について関心があるが, マスメディアとスポーツの関係を理解するには, 全体を把握する必要がある。社会学の立場から指導する。

Keywords: スポーツ社会学, メディア, 内容分析, オーディエンス

スポーツ史 研究指導(修士課程)

石井 昌幸 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ史・国際スポーツ文化論

研究指導の内容: スポーツおよび身体に関わる歴史研究の方法を指導する。現在, 指導教員は, 近代欧米社会を中心に, 工業化社会・市民社会におけるスポーツ文化の形成過程を主たる研究テーマとしているが, そのほかに, プロスポーツ, スポーツ産業の成立過程, 日本における近代スポーツの受容過程, 世界各地へのスポーツ伝播のプロセスなど, さまざまな文化史研究への展開を考えている。また, 近代国民国家における国民統合とスポーツの関係や, 近代スポーツを通じての文化変容, 身体観の変容といった比較的新しい歴史学のトピックも扱いたい。

Keywords: スポーツとイギリス近代, 伝播, 変容, 土着化, 国民国家, 帝国

舞踊論 研究指導(修士課程)

杉山 千鶴 教授

専門分野／専攻分野:舞踊学、モダンダンス

研究指導の内容:本研究指導では、特定のジャンル・地域・時期に限定しない。広く舞踊の各ジャンルならびにこれに類する芸術スポーツとされるものにつまざる諸問題に関し、記され残された文献・資料、実践を通して研究を進める。また舞踊と深い関連を有する軽演劇や音楽(オペラ)も視野に入れる。例えば日本のモダンダンスの草創のキャリアのスタートがオペラ歌手であったこと、その前史が1920年代の軽演劇(浅草オペラ、浅草レビュー)に認められるように、これらの領域は舞踊史を考える際に不可欠である。多様なアプローチを試みたい。

Keywords:舞踊、芸術スポーツ、軽演劇、振付・動作、技法

体育科教育学 研究指導(修士課程)

吉永 武史 准教授

専門分野／専攻分野:体育科教育学

Home page:<http://www.f.waseda.jp/tomozoe/yoshinaga.html>

研究指導の内容:体育科教育学は、学校の体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。研究指導では、従前の体育科教育学の研究成果を踏まえて、カリキュラム論と学習指導論の両面から体育授業研究にアプローチし、優れた体育授業を実践していくための方策について検討する。具体的には、体育授業の目的・目標論、学習内容論、内容編成論、教材づくり論、指導方法論など、それぞれ理論的・実証的方法で研究を進めていく。加えて、ボールゲームの指導モデルとして注目されている戦術学習論や、高度な実践的力量を備えた体育教師の養成に向けた教師教育論についても指導する。

Keywords:カリキュラム、学習指導、教材開発、授業評価、戦術学習、教師教育論

スポーツ教授学 研究指導(修士課程)

深見 英一郎 准教授

専門分野／専攻分野:スポーツ教授学

学位:博士(体育科学)筑波大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/tomozoe/fukami.html>

研究指導の内容:スポーツ教授学は、スポーツ教育学の中核となる学問領域であり学校の体育授業や運動部活動、さらには地域のスポーツ活動における優れた実践指導のあり方を追究することを目的として行われる研究分野である。スポーツ指導の成否は、その直接の担い手である指導者の資質や能力が大きく影響する。ここでは、指導者の経験やセンスという表現でこれまで扱われてきたものを、指導者の教授技術や知識・思考といった側面から検討する。具体的には、学習者が意欲的に運動に取り組み、運動技術を習得するために、指導者はどのような働きかけができるか。そのために、指導者にはどのような資質や能力が求められるかについて理論的ならびに実証的方法で研究を進めていく。

Keywords: 教授技術、体育授業、運動部活動、指導者、指導方法、相互作用行動

スポーツ社会学(修士課程、博士後期課程)

中澤 篤史 准教授

専門分野／専攻分野:体育学、スポーツ社会学

学位:博士(教育学、東京大学)

研究指導の内容: スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する研究を指導する。問題関心の持ち方や分析対象の選定は幅広く多様で良いが、とくにユーススポーツや運動部活動そして身体の教育についての専門的な研究指導を行う。指導方針として、①魅力的な「問い」が立てられるようになること、②方法論や分析枠組みを適切に設定できるようになること、③データや根拠を十分に集められるようになること、を重視する。合わせて、フィールドワーク、史資料の蒐集、質問紙調査および統計的分析などの調査方法についても指導する。

Keywords: 社会、ユーススポーツ、運動部活動、身体の教育

2. スポーツビジネス 研究領域

スポーツ経営学 研究指導(修士課程)

木村 和彦 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ経営学/スポーツツーリズム論

研究指導内容:スポーツ経営は、スポーツ参加や観戦を支えるスポーツサービスを効果的・効率的に提供しようとする組織的な営みである。その領域は、メガスポーツイベントやプロスポーツ球団の経営から地域スポーツや学校体育の経営まで広範囲にわたる。本研究指導では、個別のスポーツ経営領域を対象に対して、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる提案力を高めていく。具体的には、経営戦略や事業戦略、マーケティングと消費者行動、組織と人的資源マネジメントなどに焦点を当て、定量的(質問紙調査など)・定性的(ケーススタディなど)分析手法を身につける。また新たなテーマとして、スポーツツーリズムについても注目している。

Key words:経営戦略、マーケティング、人的資源マネジメント、スポーツツーリズム

健康スポーツ論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

中村 好男 教授

専門分野/専攻分野:体力科学・スポーツ産業学/運動生理学・健康スポーツ論

学位:博士(教育学)東京大学

E-mail:nakamura@waseda.jp Home page: <http://www.waseda.jp/sem-nakamura440/>

研究指導の内容:本研究指導では、“スポーツを通じた健康増進”という社会的ニーズに応えるために、体力科学、運動生理学、栄養学などの<身体の理論>から、身体行動科学、社会マーケティングといった<行動の理論>、さらには、ビジネスマネジメント、マーケティングなどの<社会組織の理論>まで、様々な領域における基礎学問分野の知見を踏まえて、「地域住民へのスポーツ振興」ならびに「健康増進の達成」という目標を実現するための実践的技法を確立することを目指している。具体的には、地域自治体、総合型地域スポーツクラブ、老人福祉施設、職場等のさまざまな現場(フィールド)での実践的研究によって、健康増進や介護予防に資するためのプログラムの開発とその評価モデルの構築に加えて、地域社会におけるスポーツ振興、健康増進ならびに介護予防システムの構築を行う。主な研究課題は、1)健康増進を目標とする運動やスポーツの振興と奨励の手法開発と評価、2)ウォーキングプログラムの開発と指導、3)介護予防のためのトレーニングプログラムと地域住民ボランティア育成手法の開発と実践活用、4)スポーツビジネスの活性化とスポーツ振興、5)総合型地域スポーツクラブの運営と地域スポーツ指導者の育成などがある。

Keywords:体力, 健康, 運動, 健康増進, 介護予防, ウォーキング, 行動科学, マネジメント

スポーツビジネスマネジメント論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

原田 宗彦 教授

専門分野: スポーツマネジメント・スポーツ産業論

学位: Ph.D. ペンシルバニア州立大学

Home page: <http://www.haradalabo.jp/index.html>

研究指導の内容: スポーツマネジメントやスポーツ産業論は新しい学問領域であり、80年代に始まるスポーツのビジネス化現象にともなって知識の体系化と教科書化が進展した。特に放送権料とスポンサーシップに見られる権利ビジネスの発展は、スポーツのメディア価値を増大させ、従来のスポーツ産業の構造を大きく進化させた。研究指導においては、スポーツビジネスのマクロ的視点として「スポーツと都市マーケティング」に関する研究、ミクロ的視点では「スポーツ消費者の行動学的分析」に関する研究を指導する。具体的には、前者では、スポーツ振興モデルを応用した政策提言的研究やスポーツイベントの経済効果に関する研究、後者ではプロスポーツにおけるファンのチーム・ロイヤリティに関する研究や、スポーツ・フィットネス産業における経験マーケティングに関する研究などをカバーする。さらにスポーツビジネスが直面する国際的な競争環境を理解するために、海外学会での研究発表能力の育成にも力を注ぐ。

Keywords: スポーツビジネス、スポーツ産業、スポーツマーケティング

スポーツクラブビジネス論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

間野 義之 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ政策

学位: 博士(スポーツ科学) 早稲田大学

Home page: <http://www.manosemi.net/>

研究指導の内容: 学校運動部活動と企業スポーツを両輪とした日本型スポーツシステムの限界が見えるなか、地域密着型の新たなスポーツシステムが求められている。企業運動部のクラブ化はもとより、Jクラブやプロ野球でも地域に根付いたクラブ化を模索しており、その一方で学校・地域・家庭・企業・行政の連携による「総合型地域スポーツクラブ」の普及・育成が国策として進められている。プロ・アマを問わず、これらのクラブが自主独立し健全に発展するためには、多くの複雑な問題が存在する。それら諸問題の現実的な解決策(ソリューション)について研究指導する。具体的には、プロ・アマのクラブについての育成政策、活動拠点となる公共スポーツ施設政策、スタジアム・アリーナの整備・管理・運営政策、それらのモデルを実現できる人材(マネジャー)育成政策、クラブ創設・継続に必要な財政、継続事業体としての法人化政策、地方自治体や中央政府との連携方策、効果的なプロモーション政策などについて総合的に研究指導する。

Keywords: クラブビジネス、スタジアム・アリーナビジネス、リーグビジネス

トップスポーツビジネス論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

平田 竹男 教授

専門分野/専攻分野:経営学/スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論

学位:工学博士(東京大学)

Home page:<http://www.waseda.jp/sem-hirata/>

研究指導の内容:本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。

日本サッカー協会専務理事や内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進本部事務局長としての経験等に基づき指導を行う。

具体的な研究課題:

- 1) 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーに関する研究
- 2) 地域スポーツクラブのビジネスモデルに関する研究
- 3) プロスポーツ等のリーグ設計及びクラブ・球団経営
- 4) スポーツメディア研究
- 5) スポーツリーグ分析と競技団体研究
- 6) スポーツを活用した企業、大学、教育機関の経営研究
- 7) スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論 など

Keywords:スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテインメント、地域、アジア

スポーツ組織論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

作野 誠一 教授

専門分野/専攻分野: 体育・スポーツ経営学, スポーツ組織論

学位: 博士(学術)金沢大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/sakuno/>

研究指導の内容:人とスポーツの関わりは、「する」「みる」にとどまらず、「支える」「読む」など多岐にわたる。そして、いずれの関わり方も何らかの組織を介していることが多い。本研究指導においては、多様な体育・スポーツ経営現象を把握・説明する枠組みとしての組織論について理解を深め、これを基盤とする組織マネジメントの方法について考究する。さらに、各自の関心に基づき研究を進めるための基本的な知識ならびに調査・分析技法(量的/質的)の習得をめざす。研究テーマとしては、各種スポーツ組織のマネジメントについて、リーダーシップ、モチベーション、組織化(支援)、人材マネジメントなど、主にマイクロ-メゾレベルの組織論の視点からこれを捉える。その他にもボランティアマネジメント、学校体育と地域スポーツの連携など、幅広いテーマについて指導している(詳細については上記 HP を参照)。

Keywords:スポーツ組織、地域スポーツ、スポーツクラブ、人材マネジメント、学校体育経営

スポーツビジネス・アドミニストレーション 研究指導(修士課程, 博士後期課程) **武藤 泰明 教授**

専門分野/専攻分野: スポーツマネジメント / スポーツファイナンス

学位: 博士(スポーツ科学) 早稲田大学

Home page: <http://muto-web.jp/>

研究指導の内容: スポーツビジネスの世界は、一般的なビジネスやマネジメントでは取り扱わ(え)ない新しい研究テーマの「宝庫」です。本研究指導では、ビジネス、マネジメントとスポーツビジネス、スポーツマネジメントを比較分析の観点から取り上げ、専門的な知識を修得していきます。またこれにより、実業に進むことを志向する学生については、スポーツに関連するビジネスでマネジメントを担務する能力の形成を目指します。研究者を志望する学生については、新たな研究領域やテーマの開拓を主な目的とします。

Keywords: プロスポーツの経営戦略、非営利組織のマネジメント、スポーツ・ガバナンス、スポンサー・マーケティング、企業スポーツ

スポーツビジネスマーケティング 研究指導(修士課程, 博士後期課程) **松岡 宏高 教授**

専門分野/専攻分野: スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動論

学位: Ph.D. (スポーツマネジメント) オハイオ州立大学

研究指導の内容: 「見るスポーツ」を売るプロスポーツクラブ・球団や「するスポーツ」を売るクラブ・団体など、スポーツ組織のビジネスにおいてマーケティングは不可欠である。スポーツマーケティングには、スポーツを効率よくプロデュースして提供する「スポーツのマーケティング」と、企業がスポーツを利用してプロモーション活動を行う「スポーツによるマーケティング」があるが、両者においてスポーツ消費者(する人や見る人)を理解することが最優先の課題となる。本研究指導では、主にスポーツ消費者の心理や行動の理解に焦点を当て、その解明に必要な科学的な研究手法を身につけることを目的とする。具体的な研究テーマとしては、スポーツファン・観戦者の動機とチームへの愛着、スポーツ消費者のサービス評価と満足、プロスポーツ球団・クラブのプロモーションの効果、そしてスポーツスポンサーシップの効果などがある。

Keywords: スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツ消費者、スポーツスポンサーシップ

スポーツビジネス法 研究指導(修士課程)

松本 泰介 准教授

専門分野/専攻分野: スポーツ法

研究指導の内容: スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このようなホットピックに関する実践的な研究を指導する。

3. スポーツ医科学 研究領域

運動免疫学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

赤間 高雄 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ免疫学、スポーツ医学、アンチ・ドーピング

学位:医学博士(筑波大学)

Home page:<http://www.f.waseda.jp/takao-akama/top.html>

研究指導内容:運動による免疫機能の変化の解析とその応用について研究する。運動による免疫機能の変化のメカニズムを検討し、適度な運動が免疫機能を高めることを検証する。主な研究テーマとしては、(1)加齢で低下した高齢者の免疫機能を高める運動処方、(2)アスリートのトレーニングに伴う免疫機能の変化の測定とコンディショニングへの応用、(3)運動後の免疫機能低下のメカニズムと低下防止の方策の検討である。また、アスリートのコンディショニングにおいて重要なファクターであるアンチ・ドーピングも研究テーマとする。

Keywords: 免疫、防衛体力、加齢、コンディショニング、細胞、蛋白質、アンチ・ドーピング

健康運動疫学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

荒尾 孝 教授

専門分野/専攻分野:公衆衛生学/運動疫学・健康教育学

学位:博士(医学)順天堂大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/tarao/>

研究指導の内容:健康づくり研究においては、集団の健康実態を定量的に評価し、健康阻害あるいは増進に係る要因を明らかにする。そのうえで、問題解決の具体的な対策を立案・実践し、その効果を科学的に評価することが重要である。このような一連の研究活動においては、疫学方法論に基づく質の高い研究をデザインし、疫学統計学による質の高いデータ解析を行うことが重要となる。そして、そのような質の高い研究から得られる成果(evidence)を政策に反映させ、学校、地域、職域といったより大きな集団レベルでの健康づくりの実践とその効果を検証することが求められる。そこで、ここでは身体活動・運動・スポーツによる健康づくりに関する質の高い研究方法を習得することを目指し、健康づくり研究のデザイン論とデータ解析法について指導する。また、研究室で実践している地域における全住民を対象とした健康づくりプログラムとシステム作り、職域におけるメンタルヘルスの実態とその関連要因および予防改善プログラムの開発といった研究活動に参加することにより研究実践の能力向上を図る。

Keywords: 健康づくり、研究デザイン論、疫学、統計学、公衆衛生学、健康教育学

スポーツ健康管理学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

坂本 静男 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ内科学/健康予防医学

学位: 医学博士(聖マリアンナ医科大学)

Home page: <http://www.f.waseda.jp/s.sakamoto/>

研究指導の内容: スポーツには生活習慣病に対する効果などがある反面, 突然死や熱中症といった急性内科的障害, 貧血やオーバートレーニング症候群といった慢性内科的障害のあることを, これまでに報告されている論文や最新の研究報告等を抄読することにより, 理解してもらう。それとともに, スポーツの効果を判定するための検査法や, 内科的異常を診断する検査法などに関して, 医師でもある担当教員の指導下に体得してもらう。つまり運動負荷試験, 心エコー図検査, ホルター心電図検査などを駆使したメディカルチェックの重要性を多方面から理解してもらう様な, 体験学習的な講義を行うことになる。

Keywords: スポーツ, 突然死, 熱中症, 貧血, オーバートレーニング症候群, 運動負荷試験, 心エコー図検査, ホルター心電図検査

運動器スポーツ医学 研究指導(修士課程)

鳥居 俊 准教授

専門分野/専攻分野: スポーツ医学/スポーツ整形外科学/発育発達学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/shunto/>

研究指導の内容: スポーツや広く身体活動により人体に生じる変化を医学的側面より研究する。またスポーツ活動によって生じる急性・慢性損傷の発生メカニズムの運動学的分析, 病態の生理・組織学的分析, 生活習慣病や加齢による運動器変性疾患に対するスポーツや身体活動の運動療法としての有効性の検証, 身体活動の心身の健康, QOL への貢献などに関しても実験研究・調査研究を行う。スポーツ現場での選手のコンディション管理やオーバートレーニングの予防, メディカルチェックシステムの構築など現場に直結する臨床研究も進める。さらに, 発育期の運動器の形態や機能の変化, 身体活動の効果を計測するとともに, 体力・学力や生きる力の低下を問題視されている現代の子どもへの身体活動や身体への関心を通じた働きかけを実践したい。

Keywords: 身体活動, 運動器, スポーツ障害, コンディショニング, 運動療法, 生活習慣, 発育発達

健康行動科学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

岡 浩一朗 教授

専門分野/専攻分野: 健康行動科学、行動疫学

学位: 博士(人間科学) 早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/koka/index.html>

研究指導内容: 自治体や病院、学校などの健康づくりの現場と連携して、生活習慣改善、特に身体活動・運動の習慣化や座位行動の改善に関する研究指導を行う。具体的には、①環境整備や行動理論に基づく生活習慣(身体活動、座位行動)改善プログラムの開発、②ヘルスコミュニケーションを駆使した健康情報の普及に関する研究、③介護予防プログラム(筋力トレーニング、水中運動、認知症予防など)の開発、④膝痛・腰痛高齢者の痛み自己管理への認知行動療法の応用、⑤心臓リハビリテーション患者の健康関連 QOL 改善を目指した運動指導方策の検討、⑥子ども・青少年における身体活動支援環境の整備に関する研究、⑦認知行動療法に基づくスポーツ選手の心理的サポートに関する研究などである。地域保健や介護福祉、医療・看護・リハビリテーション、学校教育、スポーツ指導など健康づくりの現場で役に立つ行動科学的アプローチの視点や具体的方法について学べるよう支援する。

Keywords: 行動変容、座位行動、がん予防、犬の散歩、老化予防、運動器疾患、運動療法、認知行動療法、メンタルヘルス、子ども・青少年、身体活動支援環境

スポーツ整形外科学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

金岡 恒治 教授

金岡 恒治 教授 専門分野/専攻分野: スポーツ医学/整形外科、バイオメカニクス

学位: 博士(医学) 筑波大学

研究指導の内容: スポーツ活動の動作解析や筋活動解析を通して理想的身体機能を探求し、同時にスポーツ障害発生に関わる身体機能不全を明らかにしていく。また推定された身体機能不全を改善するための介入研究を行い、その効果を検証し、障害予防対策を考案していく。ここで得られた機能改善介入はアスリートのパフォーマンス向上方法にも繋がる事が期待され、さらには腰痛をはじめとした様々な整形外科的疾患の運動療法開発にも繋がる。

Keywords: 身体機能、障害予防、運動療法、パフォーマンス向上

予防医学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

鈴木 克彦 教授

専門分野/専攻分野:応用生理学、内科学、免疫学

学位: 博士(医学)(弘前大学)

Home page: <http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/>

研究指導の内容: 激しい運動や過酷なトレーニングなどの身体的ストレスによる内科的障害の評価、病態機序の解析、および栄養、サプリメント、水分補給、休養、各種補完代替医療等による予防策の科学的根拠について研究する。具体的には、運動を中心とした生体のストレス応答と適応のメカニズムについて、特に生体防御(白血球機能、ホルモン・サイトカインの動態、活性酸素の代謝、筋損傷と修復)の面から研究している。また、適度な運動による生活習慣病の予防・治療と作用機序に関する検討、ストレス応答や免疫機能の解析・評価法の開発、臨床病院との連携による免疫低下、炎症、老化の制御に関する基礎的・応用的検討を進めている。研究内容については初学者で構わないが、生物化学系実験の経験と統計処理、英文読解能力は研究遂行上必須である。複数の研究プロジェクトに関わりながら、自らのテーマを設定し、研究を計画・実行し、学会発表、論文作成を進められるように指導する。

Keywords: 運動、ストレス、白血球、活性酸素、ホルモン、サイトカイン、炎症、老化、生活習慣病

アスレティックトレーニング 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

広瀬 統一 教授

専門分野/専攻分野:アスレティックトレーニング、スポーツ医学、発育発達

学位: 博士(学術)東京大学

Home page: <http://hirose-labo.jimdo.com/>

研究指導の内容: アスレティックトレーナーやコンディショニングコーチとして活動する上で必要とされる、科学的根拠に基づいたスポーツ外傷・障害予防プログラムやコンディショニングプログラムの確立を目指し、研究を進めている。スポーツ外傷・障害予防研究では、主に運動器に生じる外傷・障害発症メカニズムと要因分析を行い、予防プログラム立案と効果検証を実施している。コンディショニングプログラムにおいては性差、年齢差、生物学的成熟度差を考慮したフィジカルトレーニング方法およびコンディショニング手法の立案と効果検証を行っている。

Keywords: 足関節捻挫、ACL、スポーツパフォーマンス、サッカー、タレント発掘

骨格筋生理学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

秋本 崇之 教授

専門分野/専攻分野: 筋生物学, メカノバイオロジー

学位: 博士(医学)筑波大学

研究指導の内容: 骨格筋をモデルとして, メカニカルストレスによる組織の可塑性メカニズムに関して研究する。現在の研究室の主な研究テーマとしては, (1)メカニカルストレスによる骨格筋組織の可塑性メカニズム, (2)骨格筋がメカニカルストレスを受容するメカニズム, (3)骨格筋組織の生体外構築技術の開発等である。大学院生に対しては, これらのうちいくつかの研究プロジェクトに関わりながら, 自らが主体的に推進するテーマを設定し, 実験を進め, データをまとめ, 成果を発表し, 論文を執筆し, 研究費を獲得できる, 自律的な研究者となるための素養を身につけられるよう指導する。

Keywords: 分子細胞生物学, 逆遺伝学(マウス), バイオテクノロジー, 転写制御, 転写後制御, ビジョン, ハードワーク, チームワーク

運動代謝学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

宮下 政司 准教授

専門分野/専攻分野: 運動生理学, 代謝学, 運動栄養学, 応用健康科学

学位: Ph.D., Loughborough University, United Kingdom

URL: <http://www.f.waseda.jp/m.miyashita>

研究指導の内容: 子どもから高齢者までを対象に, 身体活動実践や栄養改善による生活習慣病予防の評価と機序究明の両側面から研究を進めます。また, アスリートのパフォーマンスやコンディショニングという観点でも研究を進めます。具体的には, ①高齢期における身体活動・食事介入による動脈硬化症予防に関する研究, ②児童・生徒における身体活動量の基準値設定に資する研究, ③身体活動・咀嚼と食欲に関する基礎(調節機構の解明)研究・応用(食行動)研究, ④アスリートを対象とした機能的食品と運動パフォーマンス・疲労に関する研究, ⑤異なるリカバリー方法が運動パフォーマンスに及ぼす影響などを研究します。さらに, 国際共同研究を通して広い視座で挑戦的に協働して取り組める能力を身につけることで将来, 国際的に活躍できる研究者の育成に力を注いでいます。「インパクトのある研究からより良い健康づくりへ」を研究室の目標とし, 得られた研究成果を社会・国民に対し広く還元していけるように支援します。

Keywords: 食後代謝, 食欲, 運動パフォーマンス, 健康

運動器スポーツ機能解剖学(修士課程, 博士後期課程)

熊井 司 教授

専門分野/専攻分野: 運動器スポーツ医学, 機能解剖学, 足の外科学, ダンスの医学

学位: 博士(医学)奈良県立医科大

スポーツ選手にとって, 運動器に発生する外傷・障害はパフォーマンス低下を引き起こすだけでなく, キャリアエンディングにも関わる重要な課題となる。運動器のスポーツ機能解剖学的観点から病態を把握し, 治療・予防法を考案, 実施するための手法を確立するための指導を行う。

主として病態解明のための組織形態学的手法, バイオメカニクスによる手法, 超音波画像解析による手法, 疫学的手法などを用い, アスリートの障害治療と予防への提案となる研究指導を行う。

Keywords: 足の外科学, 機能解剖学, オーバーユース障害, 低侵襲治療法

健康教育学(修士課程)

石井 香織 准教授

専門分野／専攻分野： 発育発達学、健康教育学

学位：博士(医学) 東京医科大学大学院医学研究科修了

生涯にわたり心身の健康を維持・増進していくことは、国をあげ対策を講じている重要な課題のひとつである。そのため、健康的な生活習慣を獲得するための効果的な方策を構築することが急務となっている。健康的な生活習慣を獲得するためには、人々が行っている健康行動の身体的・心理的健康への影響やその実態を把握し、健康行動に関連する要因を明らかにし、アプローチ方法を構築し働きかけを行うことが求められる。本研究指導では、健康教育学分野における健康づくり(特に身体活動・座位行動)に関する研究について指導を行う。主な研究のテーマは、健康教育学の諸理論を応用し、子どもから高齢者までの各ライフステージにおける身体活動の推進および座位行動の減少に関連する要因の解明やその支援方法の構築などを取り上げる。健康づくりが社会において求められている課題を理解し、その解決方法を科学的に特定するとともに、健康教育の現場において活用可能な具体的な手法の獲得を目指す。

Keywords： 健康行動、発育発達、行動科学

スポーツ神経精神医科学(修士課程)

西多 昌規 准教授

専門分野／専攻分野： 睡眠医学、精神医学、認知科学、精神生理学、睡眠・生体リズム

学位：博士(医学)東京医科歯科大

身体運動と睡眠や生体リズム、前頭葉機能との関連性について、解析と応用を研究していく。身体運動が睡眠や生体リズムに与える影響だけでなく、生体リズム調整(高照度光やメラトニンを用いる)とスポーツパフォーマンスの関連について研究も行っていく。コンディショニングにおける睡眠の位置づけについても、研究を進めていく。また、身体運動が前頭葉機能や気分や情動など精神状態に与える影響などについてもテーマとして研究指導を行う。方法論としては、睡眠ポリグラフ、脳波、光トポグラフィ、反応時間などの行動学的測定、心理検査などがあげられる。

Keywords： 身体運動と睡眠、生体リズム、精神医学・睡眠医学、神経科学

4. 身体運動科学 研究領域

スポーツ神経科学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

彼末 一之 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ神経科学、生体計測、生理学

学位: 工学博士(大阪大)、医学博士(大阪大)

Home page: <http://www.f.waseda.jp/kanosue/>

研究指導の内容: スポーツに限らず日常生活の何げない動作でも、円滑な運動の遂行には脳(神経系)が中心的な役割をはたしている。この運動制御に関係した脳機構の研究を行う。特に「手足の協調」、「運動のイメージ形成」、「姿勢調節」について fMRI, 磁気刺激などで解析する。特に、運動能力の個人差がどのようにして生まれるのか、「運動神経が良い」と言われる人は何が優れているのか。このような視点で、基礎的な運動からピッチング、走動作、テニス、スキーなどの解析を行う。

Keywords: 脳、運動制御、協調運動、運動イメージ、無侵襲脳計測、高速現象の計測、陸上、スキー

生体ダイナミクス 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

川上 泰雄 教授

専門分野/専攻分野: 運動生理学/バイオメカニクス

学位: 博士(教育学)東京大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/ykawa/indexj.htm>

研究指導の内容: 1)人間を対象として、身体運動の発生源である骨格筋の形態的・機能的特性の生体計測を行う。また、人体筋の非侵襲的な可視化および収縮の定量化に関して、超音波法やMRI法などの画像解析、筋力計や筋電図、電気刺激を用いた生体信号解析などを駆使して研究を進める。収縮中の骨格筋のダイナミックな動きを可視化・定量化し、筋力発揮特性や身体運動のパフォーマンスの規定因子を探る。さらに、トレーニング、身体不活動、成長、加齢、疲労などによって筋に生じる変化について検討する。2)人間の体型や身体組成について、MRI法や3次元人体形状計測法を用いた計測を行い、体力特性や成長・加齢の影響、トレーニング効果について縦断的・横断的に検討を加える。現在、以下の3つのテーマを柱とした研究が進行中である。1)骨格筋のメカニクス、2)筋・腱特性の個人差と適応性、3)スポーツパフォーマンスの規定因子。具体的なプロジェクトについては研究室ホームページを参照されたい。

Keywords: 筋線維、腱組織、超音波、MRI、組織画像解析、生体信号解析、生体計測、スポーツパフォーマンス

運動生化学 研究指導(修士課程)

樋口 満 教授

専門分野/専攻分野:運動生化学

学位:教育学博士(東京大学)

Home page: <http://www.aoni.waseda.jp/m.higuchi/>

研究指導の内容:運動と食生活による健康増進、及び生活習慣病・メタボリックシンドローム・サルコペニアなどの予防に関して、以下のテーマで研究を行う。1)ヒトを対象とした応用運動生化学的視点から、糖・脂質代謝機能について研究する。2)運動による健康の保持・増進に関して、遺伝素因を考慮しながら、ウォーキング・ジョギング・ローイングなど各種スポーツを行っている中高年者を対象として、生理・生化学的視点から研究する。3)アニマルスタディによる基礎運動生化学的視点から、骨格筋におけるエネルギー代謝、及び糖・脂質代謝機能の適応的变化などに関し研究する。

Keywords:運動習慣、食生活、健康増進、生活習慣病予防、糖・脂質代謝

スポーツ生理学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

村岡 功 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/スポーツ生理学

学位:博士(医学)東京医科大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/imuraoka/>

研究指導の内容:一過性の運動・スポーツ活動に対する生体応答および規則的なスポーツ活動に伴う生体適応について、主に呼吸循環系と生化学的な面から研究する。主な研究課題は、1)呼吸循環系に及ぼすトレーニングの影響、2)スポーツにおける低酸素室の利用法、3)低酸素室居住および高地トレーニングの効果に及ぼす個人差の影響、4)運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントの効果。

Keywords:呼吸循環系機能、高地トレーニング、低酸素室居住、サプリメント

スポーツ心理学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

正木 宏明 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ心理学, 運動心理学, 認知神経科学, 精神生理学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.waseda.jp/sem-masaki/>

研究指導の内容:スポーツ場面で観察される巧みな動作は、どのようにして作りだされているのだろうか。本研究指導では、人間と環境との相互作用を重視する心理学的アプローチに主眼を置きながら、認知神経科学の手法を適用することで、スキル動作の背景メカニズムを解明していく。スポーツでは、視覚情報を瞬時に認知し、適切な行動を選択し、それを正確に実行する必要性に迫られる。実際の動作が目標動作から逸脱すれば、脳はそれをエラーとして検出し、評価・修正することで、より洗練された動作をつくりだしていく。こうした脳内情報処理を、高時間分解能の脳波と高空間分解能のfMRIとの組み合わせで検討する。さらに同様の手法を用いて、運動が認知機能に及ぼす影響についても検証する。アスリートのなかには、プレッシャー下でパフォーマンスを低下させてしまう者がいる(あがり)。あがり防止策として、眼球運動に着目したトレーニング方法(quiet eye training)の有効性についても実験的検証を行う。

Keywords:脳波、機能的MRI、運動学習、パフォーマンスモニタリング、アイトラッカー、あがり、QE

スポーツ情報処理 研究指導(修士課程、博士後期課程)

菅田 雅彰 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ情報工学、マルチメディア情報処理、ロボティクス

Home page: www.f.waseda.jp/hon/index.html

学位:博士(工学)早稲田大学

研究指導の内容:近年、コンピュータを利用したスポーツ動作解析やスポーツ動作のコンピュータシミュレーション、さらには新たなデジタルメディア時代に対応した画像、音声のスポーツメディア情報処理など、スポーツ科学における情報処理の役割が大きくなってきている。本研究指導では、スポーツ動作解析、知覚情報と動作情報をリンクさせたスポーツ動作情報処理モデル、スポーツメディア情報処理などを中心に、スポーツ科学における情報処理に焦点を当てた研究指導を行なう。

Keywords:情報処理、スポーツ動作解析、スポーツメディア、知覚運動系モデル

統合運動神経生理学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

宝田 雄大 教授

専門分野/専攻分野:生物・生命科学(神経科学)、(運動)生理学、スポーツ科学

学位:博士(学術)東京大学

Home page: <http://researchers.waseda.jp/profile/ja.2a4c95e8182a613cb97bfd1b7340fab.html>

研究指導の内容:①-我々は、日常生活を特に意識することなく過ごしている。実際ヒトは、無意識的に行動目標を追求でき、それを報酬と関連付けることで、高い意欲をもって無自覚的に力強いアクションを引き起こす。運動行動の自動的・無自覚的制御と脳活動等に関する神経科学的な研究を指導する。②-低強度な血流制限下運動(通常“加圧トレーニング”)は一過的に内分泌・運動システムを活性化させ、その中長期的な実施は筋肥大をともなった筋力増大を引き起こす。血流制限下運動の一過的・慢性的身体適応に関する生理学的・神経科学的な研究を指導する。③-①と②で挙げた筋力発揮等の心理的・神経科学的、生理学的知見に基づいたトレーニング法開発に関する研究指導をおこなう。

Keywords: 無意識の意志、動機づけ、潜在学習、運動システム、自己主体感、努力感、潜在筋力、筋肥大、加圧、レジスタンストレーニングなど

バイオメカニクス 研究指導(修士課程、博士後期課程)

矢内 利政 教授

専門分野/専攻分野:バイオメカニクス/スポーツ傷害・パフォーマンス分析

学位:PhD University of Iowa

研究指導の内容:スポーツの競技力を向上するためには大きな力を発揮することが求められる反面、構造上耐えることができない力が身体組織に作用すると傷害が発生します。バイオメカニクス研究室では、競技力の向上とスポーツ傷害の予防の両面を達成できるテクニックを構築・提案することを目的に、研究を実施しています。具体的には、身体の動きを高速度カメラ、筋電計、ゴニオメータ等を用いて観察したデータを力学原理に基づいて解析することにより、スポーツパフォーマンスの“からくり”を解明します。また、パフォーマンス分析に加えて、超音波診断装置やMRIを用いて各選手の解剖学的特徴を分析することにより、スポーツ傷害の発症メカニズムを競技種目別・各選手別に探ります。これら研究を通じて、スポーツのパフォーマンスと傷害についての理解を深め、競技力向上と傷害の予防に役立つ知見を広めます。

Keywords: 関節可動域、キネマティクス、筋骨格系傷害、姿勢、Newton 力学

スポーツ栄養学 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

田口 素子 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/スポーツ栄養学

学位: 博士(スポーツ科学)早稲田大学

研究指導の内容: 競技者のコンディショニングと競技力向上のための栄養摂取方法について、以下のテーマで研究を行う。1) エネルギーバランスや基礎代謝量の評価を行い、競技者のエネルギー代謝と身体組成に影響を及ぼす諸要因について検討する。2) 食事介入研究を行うことにより、競技力向上やコンディショニングのための栄養摂取方法について検討する。また、ウエイトコントロール(増量・減量)や試合前などに適した栄養・食事摂取方法について探る。3) 女性及びジュニアを含む競技者に対する栄養指導・栄養教育の方法や効果について検証する。これらの研究を通して、パフォーマンス向上とスポーツ栄養マネジメントを行うにあたって役立つエビデンスを蓄積する。

Keywords: エネルギー代謝、身体組成、栄養・食事管理、栄養指導・栄養教育

5. コーチング科学 研究領域

走運動・コーチング科学 研究指導(修士課程)

磯 繁雄 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング、走りの科学、障害者スポーツ指導論

研究指導内容:近年のスポーツは、科学的視点が導入され基本的動作や体力・心理等の解明によりコーチングの一般化は明らかにされつつある。しかし、トップアスリートに対しては、競技種目別や指導者の手法の違いにより、様々なコーチングが存在している。本研究指導では、トップアスリートを対象とした様々なコーチングを動作解析法や社会調査法等により、競技種目間に存在する、動作の共通性や特異性を解明する。特に「走り」に関しての解明は、中心的課題である。また、障害者のトップアスリートに注目し、健常者との共有した競技力向上のコーチングについても注目している。

keywords:コーチング、陸上競技、動作解析、走りのモデリング、障害者スポーツ

トップスポーツコーチング科学 研究指導(修士課程)

奥野 景介 教授

専門分野/専攻分野:記録競技・水泳競技/コーチ学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/okunok/>

研究指導の内容:現代社会に機能する「コーチング」をスポーツ・教育の分野より科学的に、また技能的に捉え、競技に対するコーチングの現象について専門的に理解を深める。また、トップアスリートに関連する実践的研究の理解を深めることで高度なスポーツ実践専門家養成を目指す。主な研究課題は、1)一流選手をはじめとする競技者のパフォーマンス獲得のプロセスや根拠の解明、2)パフォーマンスの評価、3)最新のスポーツトレーニング方法およびコーチング方法の開発:オリンピック等チャンピオンスポーツを対象として。

Keywords:パフォーマンス向上・評価、トップアスリート、コーチング、水泳

スポーツコーチング学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

土屋 純 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/tsuchiya/>

研究指導の内容:スポーツパフォーマンスは技術面、戦術面、体力面、心理面などに細分化されて評価され、それぞれについて向上策が検討されることが一般的である。本研究指導ではこのうち特に技術面を取り扱い、スポーツ技術の把握とその指導方法について、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動学の観点から解明する。主な研究課題は、1)スポーツ運動の質的把握、2)スポーツ運動のバイオメカニクスの分析、3)スポーツ技術のトレーニング方法の構築。

Keywords:スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学、コーチング、スポーツ技術、競技力向上

コーチング心理学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

堀野 博幸 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ科学/コーチング科学, スポーツ心理学

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/horino/indexj.htm>

研究指導内容:「トップアスリートのトップパフォーマンス構築」と「育成年代の選手育成」に関するコーチングプロセスには、共通する要素が多い。本研究指導では、両者のコーチング現場で起こる種々の事象を、スポーツ科学の観点から解明し、コーチングの体系化と知見の実践的応用を目指す。加えて、スポーツフィールドとアカデミックフィールドの融合を図るため、両フィールドでの活動を積極的に行う。主な研究課題は、1) スポーツ心理学とコーチング、2) 戦略・戦術分析、3) チームビルディングとチームマネジメント。

Keywords: コーチング、戦略・戦術分析、スポーツ心理学、メンタルサポート、チームマネジメント

ボールゲーム戦術戦略論 研究指導(修士課程)

倉石 平 教授

専門分野/専攻分野:コーチング、戦術戦略(ボールゲーム)、バスケットボール競技

Home page:http://www.waseda.jp/sem-ck_analysis

研究指導内容: ボールゲームにおけるコーチングは、近年まで経験的なコーチングが主となっていた。しかし現在では、スポーツ科学を重視した形に変容してきている。欧米では、ボールゲームのほとんどがプロフェッショナルなこともあり、早くからスポーツ科学が導入されていた。このボールゲームのコーチングに不可欠な要素が、情報、そしてその分析、そして反映(ゲームプランの立案)である。本研究指導として、情報の収集・分析・反映を中心に、バスケットボール、入り組むボールゲームを中心に、オリンピック、世界選手権、オリンピック予選、世界選手権予選、Bリーグ、WJBLなどを題材として実際に調査研究をする。また、そのデータを元にゲーム分析ソフトを使って分析も行う。そのほかに、蓄積データの取り方などの開発等も行う。

Keywords: コーチング、戦術戦略、情報収集・分析・反映、バスケットボール、一貫指導

トレーニング科学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

岡田 純一 教授

専門分野/専攻分野:トレーニング科学/ストレングス&コンディショニング

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/jun1okd/>

研究指導の内容: 競技者においてはパフォーマンス向上に関わる身体諸機能を高めるため、あるいは高齢者においても日常生活活動の改善のために筋力/筋機能を高めるなどトレーニングは広く一般的になっている。トレーニングの実際のプロセスは立案、実行、評価、修正を適切に行うことが大切である。すなわちプログラムの立案と管理/運用、その効果の測定および評価に関する、実践的研究を推進する。とくに、競技特性を考慮した筋力、パワー測定を中心にした身体パフォーマンスの評価やフィールドテストを活用していく。

Keywords: レジスタンストレーニング、ウエイトリフティング、ジュニア・アスリート・高齢者の体力、コンディショニング、筋力、パワー

チームスポーツコーチング論 研究指導(修士課程)

松井 泰二 准教授

専門分野/専攻分野: スポーツ科学/コーチング学、ゲームアナリシス、バレーボール

学位: 博士(コーチング学) 筑波大学

研究指導の内容: チームスポーツにおける戦術は、単なる個人技術の集合体ではなく、複数人で構成されるシステムにより成立される。したがって、そのシステムを多面的な観点から捉え、科学的根拠に基づき構築しなければならない。また、チームスポーツにおけるパフォーマンスの結果は、多様な要素が絡み合っていることから、その構造は明らかにされていないことが多い。そこで、技術・戦術・戦略およびコーチングプログラムの構築を研究課題とする。主な研究課題は、1) チームスポーツにおけるゲームアナリシス研究、2) チームスポーツにおけるパフォーマンス研究、3) チームスポーツにおける(競技レベルに応じた)技術・戦術・戦略の研究、4) チームスポーツにおける効果的なコーチングプログラムの研究

Keywords: コーチング, チームスポーツ, 技術・戦術・戦略, バレーボール

武道のコーチング学 研究指導(修士課程、博士後期課程)

射手矢 岬 教授

専門分野/専攻分野: スポーツ科学/コーチング学, 体力トレーニング学

学位: 博士(体育科学) 筑波大学

研究指導の内容: オリンピック競技である柔道は競技力向上のために体力、技術、戦術トレーニングが主に行われている。しかしながら、武道では伝統的な稽古の仕方を受け継がれている。特に武道では相手の力や技を利用することができる。また、武道特有の身体操作があり、これは他のスポーツや日常動作ではみられない。本研究指導では、武道特有の特殊な体力を測定したり、技の動作分析を行ったりして、トップアスリートや熟練者の強さや効率の良さを解明する。主な研究課題は、1) 技術に関する特殊筋力測定の開発、2) 熟練者の技の解明、3) 技術の指導法の構築などである。

Keywords: 格闘技, 武道, 柔道, コーチング

修士課程1年制コース

1. トップスポーツマネジメントコース

トップスポーツビジネス論 研究指導(修士課程, 博士後期課程)

平田 竹男 教授

専門分野/専攻分野:経営学/スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論

学位:工学博士(東京大学)

Home page:<http://www.waseda.jp/sem-hirata/>

研究指導の内容:本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。

日本サッカー協会専務理事や内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進本部事務局長としての経験等に基づき指導を行う。

具体的な研究課題:

- 1) 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーに関する研究
- 2) 地域スポーツクラブのビジネスモデルに関する研究
- 3) プロスポーツ等のリーグ設計及びクラブ・球団経営
- 4) スポーツメディア研究
- 5) スポーツリーグ分析と競技団体研究
- 6) スポーツを活用した企業、大学、教育機関の経営研究
- 7) スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論 など

Keywords:スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテインメント、地域、アジア

2. スポーツクラブマネジメントコース

スポーツクラブマネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

間野 義之 教授

専門分野/専攻分野:スポーツ政策

学位:博士(スポーツ科学)早稲田大学

E-mail: y-mano@waseda.jp Home page: <http://www.manosemi.net/>

研究指導の内容:学校運動部活動と企業スポーツを両輪とした日本型スポーツシステムの限界が見えたなか、地域密着型の新たなスポーツシステムが求められている。企業運動部のクラブ化はもとより、Jクラブやプロ野球でも地域に根付いたクラブ化を模索しており、その一方で学校・地域・家庭・企業・行政の連携による「総合型地域スポーツクラブ」の普及・育成が国策として進められている。プロ・アマを問わず、これらのクラブが自主独立し健全に発展するためには、多くの複雑な問題が存在する。それら諸問題の現実的な解決策(ソリューション)について総合的に研究指導する。具体的には、受講生自身が関与する(であろう)スポーツクラブの修士論文について研究指導する。

Keywords:スポーツクラブ,公共スポーツ施設,スポーツ政策,プロモーション,セカンドキャリア,クラブマネジャー,震災復興

3. 健康スポーツマネジメントコース

健康スポーツマネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

中村 好男 教授

専門分野/専攻分野:体力科学・スポーツ産業学/運動生理学・健康スポーツ論

学位:博士(教育学)東京大学

E-mail:nakamura@waseda.jp Home page: <http://www.waseda.jp/sem-nakamura440/>

研究指導の内容:本研究指導では、健康増進の実務経験を有する者に対して、運動やスポーツを中心とした健康増進活動の実践技能とそのマネジメント能力を開発することによって、社会的に要請される人材を育成することを目的とする。まず、身体行動科学ならびに社会マーケティングについての基礎理論を学習した上で、各々の関与する実務分野の状況に応じて、体力科学、栄養学、身体行動科学などの関連諸領域の基礎理論を学習する。それらの基礎知識を前提として、地域行政あるいは健康関連組織における健康増進のマネジメントを行う上での実務的・専門的能力を開発する。具体的には、地域自治体・総合型地域スポーツクラブ・老人福祉施設・職場等、各自が関わる現場(フィールド)において、健康増進や介護予防に資するためのプログラム(調査研究を含む)を開発しその評価モデルを構築する。それらを実現・実施した上で、その成果を取りまとめて修士論文を提出するとともにしかるべき学術誌に投稿・刊行することを、本コースの到達目標とする。

Keywords:体力,健康,運動,健康増進,行動科学,マネジメント,マーケティング

4. 介護予防マネジメントコース

介護予防マネジメント 研究指導(修士課程1年制コース)

岡 浩一朗 教授

専門分野/専攻分野:健康行動科学・行動疫学・老年学/介護予防・ヘルスプロモーション

学位:博士(人間科学)早稲田大学

Home page: <http://www.f.waseda.jp/koka/index.html>

研究指導の内容:超高齢社会を迎えた我が国における2025年問題の解決に向け、介護保険など社会保障制度の整備、改革が進められている。このような背景のもと、高齢者の寝たきり予防、健康寿命の延伸を目指した介護予防の取り組みが注目され、その方法論の確立が急務となっている。特に、介護予防の対象者をどのようにして把握するのか、どのようなサービス(たとえば、運動器の向上や運動器疾患対策、認知症予防のためのプログラムなど)を提供していけばよいのか、介護予防を効果的・効率的に普及させるためにはどのような方策を立てていけば良いのかなどは非常に重要な研究テーマである。そのため、保健・医療・福祉あるいは運動・スポーツ指導の現場で高齢者の健康づくりに携わる者が、修士論文をまとめる過程において、介護予防に関わる諸理論および実践技能を学び、行政や関連組織において介護予防を推進していく上での実務的・専門的能力が高まるよう研究指導する。

Keywords: 老化予防、虚弱高齢者、運動器疾患対策、行動変容、ヘルスコミュニケーション

5. エリートコーチングコース

エリートコーチング研究指導(修士課程1年制コース)

(主担当)土屋 純 教授

(副担当)磯 繁雄 教授

奥野 景介 教授

堀野 博幸 教授

倉石 平 教授

岡田 純一 教授

松井 泰二 准教授

射手矢 岬 教授

専門分野/専攻分野:コーチング

研究指導の内容:オリンピックや世界選手権への出場といった高い競技力を獲得する過程で経験知や暗黙知、科学的視点を豊富に蓄積してきた優れたスポーツ選手および指導者に対して、そうした知識や視点を個人内に留めおくのではなく、研究論文といういわゆる「形式知」にまとめ、その情報を発信できる能力を養成し、さらに優れたスポーツ指導者となるための研究指導を行う。高いレベルのコーチングに関する研究論文を執筆でき、トップレベルのコーチングを高度な理論を背景に行える能力を習得することを到達目標とする。

Keywords: コーチング、暗黙知、形式知、日本代表
